



令和6年(2024年)3月14日 公表
 令和5年版 山口県日本海側重要魚種の資源評価

ブリ

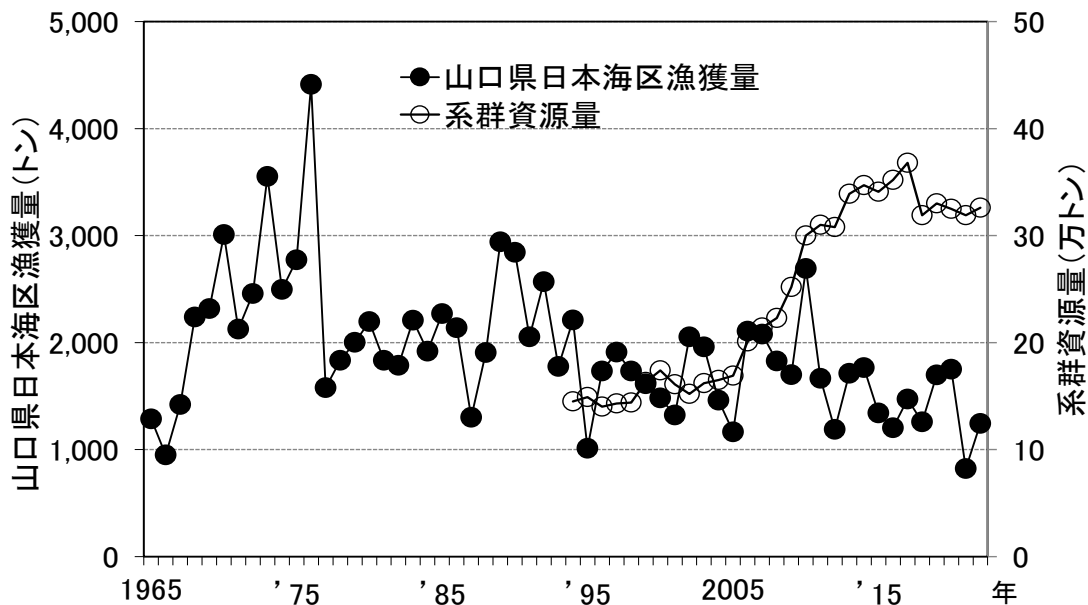


図 山口県日本海区及のぶり類漁獲量(漁業・養殖業生産統計年報)及びブリ資源量((国研)水産研究・教育機構資源評価報告書)の推移

【漁業】ブリは主に定置網、釣りおよび刺網で漁獲される。夏～秋には主にヤズ(当歳魚)、冬～春には主にブリ(3歳魚以上)・メジ(1～2歳魚)が漁獲される。

【漁獲量】山口県日本海区の漁獲量は、1965年以降変動しながら増加し、1976年に最高の4,412トン記録した。しかし、1977年に1,578トンに急減して以降は、約1,000トンから3,000トンの範囲で増減していたが、2021年は822トンと過去最低となった。2022年はやや増加し、1,243トンであった。

【資源状態】資源量は1994年以降2008年まで14.0万～22.3万トンで推移し、以降増加傾向となり2017年に過去最高の36.8万トンとなった。その後減少に転じ、2022年には32.6万トンとなった。

2022年の親魚量(SB)は最大持続生産量(MSY)を実現する親魚量(SB_{msy}:目標管理基準値)を下回った。また、2022年の漁獲圧(F)はMSYを実現する漁獲圧(F_{msy})を上回った。親魚量の動向は横ばいと判断された。

2022年漁獲量(万トン)	MSY(万トン)	2022年親魚量(万トン)	目標管理基準値(万トン)	限界管理基準値(万トン)	禁漁水準(万トン)
114	13.0	18.7	22.2	6.9	0.9

*暫定値